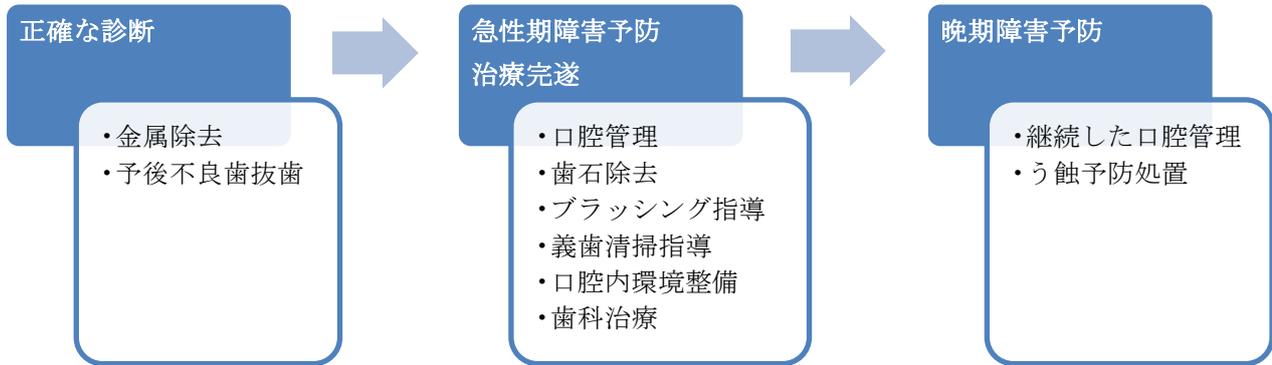
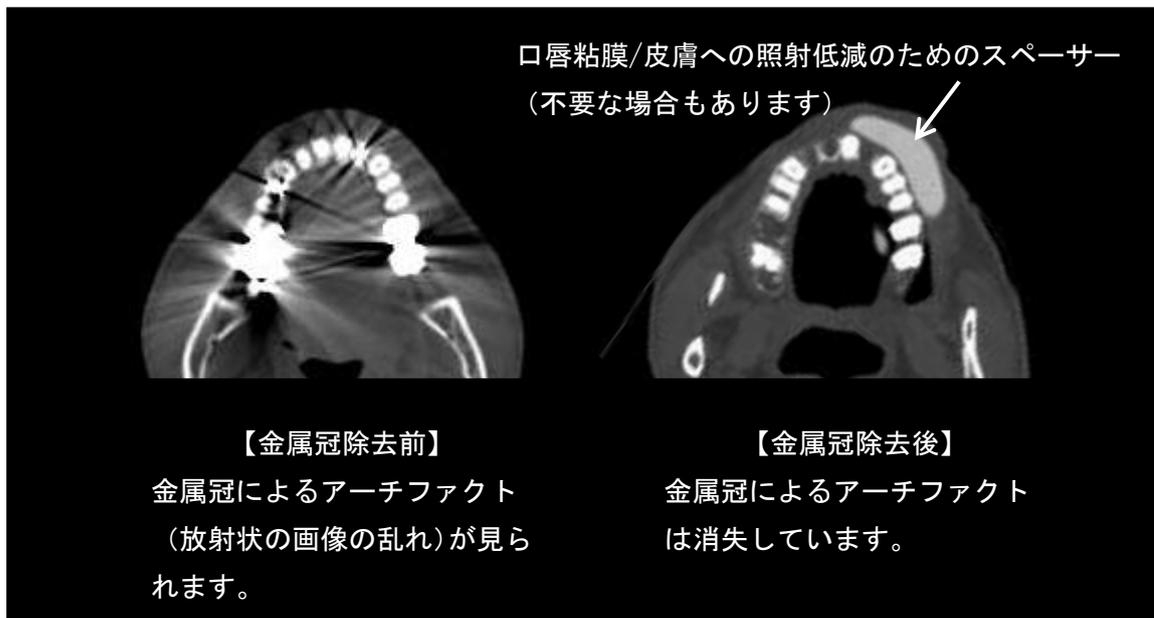


# 頭頸部がん粒子線治療前処置（口腔内金属除去・抜歯等）について

## 1. 粒子線治療前処置の必要性



粒子線治療の治療計画は、CTやMRIからの情報を用いコンピューターで計算し決定します。金属はCTやMRIでアーチファクト（画像の乱れ）の原因となり、コンピューターの計算を乱すため、不正確な照射につながります。そのため、CTやMRIの検査までに口腔内の金属の除去が必要になります（除去範囲は腫瘍の場所や範囲により異なります）。



### 【急性期障害（粒子線治療中～終了後1ヶ月）】

口腔粘膜炎：口腔管理を行い、口腔内を清潔に保つことにより、重症化を予防します。そのためには、治療前の歯石除去や清掃しやすい口腔環境に整えることが大切です。

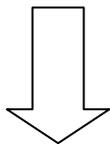
### 【晩期障害（粒子線治療終了後数ヶ月～数年）】

顎骨壊死：照射後の抜歯が最大の誘発因子となりますので、照射前処置として予後不良歯（いずれ抜かないといけなような歯）の抜歯が必要となります（**粒子線治療後は、照射範囲内は原則的に抜歯できません**）。

## 2. 診療の流れ

①粒子線センター初診

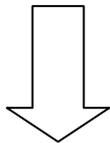
連携歯科医院受診（口腔内診査、歯石除去）



口腔内金属除去、歯科治療、抜歯

\*CT・MRI撮影までに行います。

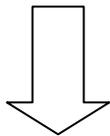
②CT・MRI撮影、照射用固定具作成



\*撮影時の（口腔内）情報と固定具を用いて照射を行いますので、

これ以降は、口腔内の状態を変える事はできません。

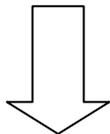
③治療（約5～6週間）



口腔内評価

口腔管理、ブラッシング指導（連携歯科医往診もしくは連携歯科医院通院）

④退院



口腔管理の継続

補綴（かぶせや入れ歯）処置